

平成21年7月27日

ジャーナリストを対象としたライフジャケット着用体験会を開催

第三管区海上保安本部マリンレジャー安全推進室では、平成21年7月16日、横浜海上防災基地の訓練水槽において、ライフジャケット着用体験会を開催しました。

今回は、『もし、あなたが乗っているボートが転覆してしまったら・・・』をテーマに、『ライフジャケット着用の重要性』と『早急な救助の必要性』をジャーナリストの方々に体験してもらい、雑誌や新聞、インターネット上の番組で紹介することにより、本格化するマリンレジャーシーズンにおける死亡・行方不明者数を少しでも減少できればと企画しました。

参加した方々からは、

「訓練は数分間だから、がんばれるが、救助がいつ来てくれるかわからない状況だったら・・・精神的に参ってしまう」

「掴まっていれば、浮いていることはできるが、体力にも限界がある。もし、転覆した船から離れてしまったら・・・、また、ライフジャケットを着用していなかったら、確実に沈んでしまう」

等ライフジャケットの重要性を認める意見が多数ありました。

また、転覆したボートに掴まりながら緊急通知機能携帯電話で通話できるか？を試したところ、良好に通話することができました。

参加者は、

- ① まず、浮いていること【ライフジャケットの着用】
- ② 連絡をとるための携帯電話【濡れても大丈夫な防水ケースまたは防水機能】
- ③ 緊急連絡番号の認識【118番】

上記3点の重要性をあらためて体感しました。

